

2014 年日本グアム親善大会レポート

平成 26 年 11 月 18 日

GNPF 日本事務局

グアムボディビル連盟(GNPF)は 10 月 25 日にレオパレスリゾートにて 2014 年度のグアムナショナルボディビルディング&フィットネスチャンピオンシップス&インターナショナルインビテーションが行われました。第 3 回となる日本グアム親善交流大会の実現にあたり公益法人日本ボディビル・フィットネス連盟様の多大なるご協力を頂き、メンズフイーゾーク及びフィットネスビキニの開催となりました。このカテゴリーは南国グアムの海をイメージさせるような逞しい男女選手の競技となります。

昨年にも増して日本国内、グアム内でのプロモーションも拡大し、日本代表する素晴らしい選手の参加が実現しました。観戦も日本から地元グアムの方々に 1000 名を超える観客となり盛大な大会になりました。

競技開催に当たりましてグアムボディビル連盟 (GNPF) は I F B B に関連するアジアのアマチュアボディビルダーと米国グアムの交流と国際交流親善と競技向上、選手育成を目的としております。

年々、グアムはスポーツアイランドになり、沢山のイベントが行われるようになりました。年間 100 万人の旅行者の方々が来島しスポーツ参加型の観光も増えております。グアム観光局の多大な協力と共にスポーツの基本であるフィジカルトレーニングの基本であるウェイトトレーニングのスペシャリストたちが集まる競技であるフィットネスの発展と健康志向型の滞在の増加を期待しております。自然の多いグアムで心身共にリフレッシュする旅行者が増えていく事でしょう。

グアム空港到着の日本選手団 (グアム政府観光局によるウェルカムセレモニー)



日本選手団と観戦ツアーの皆様がレオパレスリゾートへチェックイン！！



大会までレオパレスジムにてトレーニング。各自選手達はコンディション調整。



トレーニングの後はプールにて撮影



リラックスして日焼けは選手達の一番楽しい時間！



午後からプレスカンファレンスと選手登録と検量が行われました。
プレスカンファレンスはアミカラウンジで行われ K1 の角田信朗さんも同席し大会の祝辞
を述べました。メディアは KUAM、GVB、RADIO100 ほか数社が取材に応じました。



日本より雑誌社 3 社が取材と撮影に来ておりました。各社レポートが楽しみ。



当日、選手達はカラーリングとオイル塗り、国内では禁止なので皆さん未経験



舞台裏では選手達はパンプアップ開始！！ 凄い熱気ムンムンです。

グアムの選手達と記念撮影。



日本選手団集合写真。



フィジーク、ボディビル、ボディフィットネス、ビキニの選手が同じ大会に出場する大会は国内では無く、お互いにコミュニケーションを取ることはない。しかし、この親善大会では日本選手団として慣れないアメリカ大会を共に助け合わなければならない。その様子は素晴らしいスポーツマンシップとチームとしてのナショナルリズムを生んでいた。

男子ボディビル部門



男子フィジーク部門 (新しいカテゴリー)



女子ボディフィットネス部門



女子フィジーク部門 (ボディビル)



女子ビキニ部門 (新しいカテゴリー)



今年度より国際連盟でも動き出した新しいカテゴリーでもある女子ビキニと男子フィジークの国際交流がいち早くグアムで行われた事は国際的にも素晴らしく、歴史的な出来事でもあります。(全参加選手人数は 75 名)
ハイレベルな選手達の熱い戦いは観客を熱狂させました。
グアムの観客は熱く、パフォーマンスが素晴らしい選手には国を問わず凄い声援が送られる。

総合優勝の佐藤茂男選手



初代ビキニ優勝の荻山はるか選手



このグアム親善大会にはグアム政府（テノリオ副知事とモリソン衆議院議員）も期待をしております。公益社団法人日本ボディビル・フィットネス連盟の藤原副会長と企画会社 BELL z 吉田代表へ感謝状が贈呈されました。



レセプションパーティーでは藤原副会長より今大会の感想と選手達への抱負が語られました。選手達はリラックスムードで大会の疲れとダイエットからの開放で楽しい食事会になりました。選手達は日本代表選手団としての意識がどれだけ大切か、ナショナルリズムのあり方など、また個人競技でありながらチーム団結や団体サポートが如何に大切な事を学んだ様です。



帰国する頃にはチームワークが素晴らしい選手達の意識改革を感じました。選手達の来年の活躍を楽しみにして報告を終わりたいと思います。ご協力頂きました関係各社の方々には再び感謝と共にお礼申し上げます。

以上